

2021 自然保育推進事業 活動報告



1 団体名 認定子ども園 さざなみの森（東広島）

2 活動テーマ

○菜園活動：食べられる園庭づくり

子どもたちと日常のなかで野菜づくりを楽しんでいます。
身近な場所で、野菜を育てる→収穫する→簡単な調理をする→食べる。
この一連の流れを子どもたちと季節を通して味わいたい
と思っています。また、様々な生命の循環や繋がりを感じて欲しいと
と思っています。

○野外活動：野原や里山で遊ぶ

板橋谷のこの風景のなかで遊ぶ子どもたち。
きっとこの原風景がその子の一生の支えになり、目に見えない宝物
になると信じています。

- ・そのために、私たち大人がこの里山の風景を残していけるよう地域と協力していくことをめざしています。おとうさん、おかあさんも一緒に子どもの遊び環境を見守り、育てていけたらと思っています。

○2021 年度菜園・野外活動

- ・今年度も園外に出て、地域の自然のなかで、地域の人々にも出会いながら、たくさんの遊びが展開した。
- ・園外のみならず、園庭の自然環境も改めて再発見し、遊びの可能性をさらに広げられる展開ができた。
- ・菜園活動では、午後の時間だけでなく、お部屋での取り組みがとても盛んになり、度々畑にお世話をしにいく様子や、収穫してクッキングする活動を数多く実施した。
- ・東広島市の助成で、給食室で出てきた生ゴミを堆肥化するミミズコンポストが設置され、子ども達とミミズを観察したり、学んだり、できた堆肥を使ってプランターに花を植える活動などを実施した。
- ・コロナ禍のなかでは、むしろ園外に散歩に出たり、園庭で過ごすなど自然の中での保育が以前より多くなった。

2021.4.21.(水)

お散歩は、またまた竹林コース。

竹林で作業していたおじさんが大きくなったタケノコ採りを手伝ってくれた。

地域の方との触れ合い、嬉しいなあ。

Aさんが、上着を脱いで、寒いから火をおこしたいと言う。ので、火起こし開始。

竹を焚き火に入れるのがTさんの、竹は燃える発言で大流行り。

その竹が燃えて「水がでてる！」とMさんが発見。

みてみて！とみんなに見せた後に言ったのが

「竹のいのちがこわれていきようる」。

植物の生命は、動物の生命に比べて感じにくい。

それは、動き、を感じにくいから。

それが水を出す、という動きを竹がしたことで、

彼は、生命、そしてそれが消えゆく動き、を感じた、

もしくはそう捉えた、のだと思った。

その後、また別な感じで、Tさんが、

アリや蜘蛛、などを火の近くに降り立たせると

どうなるか実験をされていて、生命、について色々考えさせられた。



2021.5.14. (金)

雨の中の晴れ間だった

14日金曜日、ついに水路遊びが始まった。

すすすすホール前の看板にかいておいたから、靴や着替え、タオルも準備して張り切っている人も多い。

下におりると、一目散に水路へ入る人もいれば、

水路に入る準備がなく、畑でウロウロする人、

多田さんがやってきて機械を動かすのに釘付けになる人、それぞれ。

水路では、少し深くなっているところに、壁の段になっているところから飛び込む遊びや水の掛け合い、

落ちていた空き缶を洗って水をいれ、しょんべん小僧ポーズをして水を出したり、頭からかけたり。

水にを使って服に空気が入って膨らむのを楽しんだり、貝を拾ったり。

それぞれの出会い、そして、人と人との言葉や行動、感情の波紋の混ざり合い。

もう本当にいろんなことが同時多発的に起こっていて、総合的に五感も含めた豊かな経験となっているなと思う。

保護者面談で、たまたまキッズで参加した年中のMさんは、

すごい楽しかった、と目を輝かせて帰った。

遠慮がちだった行きとは打って変わって、どんどんやんちゃな面が発揮されていったのが面白かった。



2021.5.26.(水)

来年の種籾分をとって、残りでも麦茶作り。

なんだか調理をするらしい、と「何やるん！」と言いながら寄ってくる子ども達。

フライパンで麦を炒ると、

「なんかお米みたいな匂いする！！」「いい匂い！」と鼻で感じている。

木の棒を消毒してみんなで混ぜ混ぜ。

そうしていると、籾がはじけて、中から白い部分がポップコーンのように見えてくる。

火を止めて、あら熱が取れてから、みんなで味見。

不思議と殻もカリッとして、そのまま食べてもポン菓子のように香ばしくて美味しい！

次々手が伸びてくる。

味見をある程度してから、次はお茶袋に炒った籾を詰める。

これも、みんなやりたいやりたい！で、どんどん入れる。

やかんに、SさんとRさんがたっぷり水を入れてきてくれて、麦茶沸かし開始。

しばらく時間がかかるよ、と伝えたけれど、見てる！！と離れない子どもも多い。

薄いけれど色も出て、熱いからしっかり冷ましてふーふーして飲んでね、と各自のコップに注ぐ。

待ちきれずに「あつっ！」となったTさん（笑）。

それからは冷まして待つ時間があるにも関わらず、麦茶をおかわりし続ける子が多かった。

炒っただけの麦も大人気。来年は、炒った麦を食べる、でよいかも。

種まきから、麦の脱穀、麦茶づくり、と繋がり、

馴染みのなかったであろう「麦」がぐんと身近になったんじゃないかな。



2021.6.8. (火)

暑い1日だった。当然PMは水路遊び。

生き物探し、水の掛け合い、探検。

年少の子どもも次々とデビュー。

支柱の竹の棒も、釣り棒になったり、上から水に入っている子供との引っ張り合い棒になったり。

保護者も下まで迎えにきてくれるので助かる。

着替えは保護者に任せて、見守りができる。

人数が多く、幅も広く、野菜を収穫して食べる子もいる。

なかなか見守る側としては目が忙しいのだ。

今日の収穫物は赤玉ねぎ。

食べたがるので、皮をむいたら洗わなくてもかじれるよ、と言うと、

川を見ながら剥き剥き。

案の定、からーい、と言っていたけれど(笑)。



2021.6.10.(木)

天日干ししていた小麦を竹で叩いたり、
手で剥いたりして脱穀。

みんなやりたがる。

その後、延長コードをつないで外に扇風機を出して、
風で殻などのゴミをとばす。

手に粒々を掬い上げて落とす作業がみんな大好き。

さらに一部飛んでいくから、
よけい面白いがる。

いっぱい実も地面に落とされてしまったけどよしとする。



2021.6.16.(水)

散歩では、実習生の M さんもついてきてくれる。

田んぼは、今時期、たくさんの生き物がいっぱい子どもたちは釘付け。

あべまきに行きたい子どももいたから、

先に進んだけど、ずっと田んぼ際で遊んでもよかったかも(^^)

あべまきに行く途中には、近所で畑仕事をしていて前も野菜を見せてくれた

おじちゃんに会い、子ども達は興味津々に話しかける。

地域と一緒に子どもを育てる。

これってすごい安心感。



2021.6.20.(日)

いつも子ども達と入って遊ばせてもらう水路は、丹田川(たんだがわ)と言う名前だそう。
そこの地域清掃があるというので、参加させてもらった。

水路の中にはいり、壁際に生えた草をとり、水路の中をさらったり、草をあげたり。

これが、トンネル手前のところから、水門超えて、ノイエ下を流れる水路部隊と合流して、
さらに原地域の手前まで。

思っていたよりずーっと道のり長くて重労働。

こんな地域の方々の作業に支えられて地域の景観が維持され、
その中で子ども達は遊ばせてもらっている。
ありがたいことだ。感謝。

ご高齢な方が多く、80代が今回ぐんと参加してないなあ、少なくなってきたなあ、の声。

便利がよいとこだし、新たな住民も多いのだけど、きっと水路清掃があることも知らない。
地域を結ぶものが今は少ない。

園の中でボランティアを呼びかけるのも、地域の方々がよしとするなら、アリかもしれない。

そういう新たな形を模索しなければ、

地域の景観は、あと10年もしたら、かなり変わることになるだろう。



2021.6.23.(水)

子ども達が、園庭のテントの足を掴んで、それを軸に回転する遊びをする。

Sさんに至っては、両足を浮かせて宙に浮いて回転する。

楽しい遊びなのはわかるが、脚が斜めになっていたりして、

いつか、テントの脚が急に内側に入って落ちてしまう可能性があり、心配だな、と思った。

長い棒を登ったり、そこで回転したり動きを彼らは求めている。

そういうものが園庭にあれば、さるわたりのように挑戦することだろう。

Sさんの少し難しい動きにチャレンジしたい気持ちを別の場所にと思い、

国旗を掲揚する棒を登れるかなあ、と一緒にやってみる。

私は登れなかったが、彼は登れた。

この掲揚棒もすぐ下が階段で、良き場所とはいえない。

子ども達がチャレンジできる何かを必要としている子どもが何人かいそうだと思う。

ウォータースライダーから自然なうっすらできているみず道を

さらに繋いで川にする遊びを私が始めたら、

それぞれが遊び始めた。霧モードでかけた水が、髪の毛に粒状について、なんとも美しい。

きれいだー、というと自分がきれいだーと、言われたかのように嬉しそうな顔。



2021.6.24.(木)

生命が、そして水面がともに輝いていた、今日の田んぼ遊び



2021.7.1.(木)

ついに7月に。早い。

ポテトチップスづくりは、我もわれも皮剥きしたかったりして、なかなか揚げるところまでいかず。なんでもやってみたいのは、本当に素敵！だけれど、やっと17時から揚げ始めたので、食べられた子どもは少ない。油ももったいないしで、結局、19時半過ぎまで揚げ続け、冷蔵庫に入れて帰る。まだジャガイモがあるから、またやりたいと言われたら、もう1回できるけど、次は、朝からの始まりにしよう。

でも、美味しい、止まらない様子の子も達。
先月のキャベツもめちゃ美味しい！と食べていたりんさんが、「こないだのキャベツよりもおいしい～！！」と。ひとこと。



2021.9.2.(木)

保護者さんがたくさんいるから、と持ってきてくれたスズムシ。
すくすくホール入り口に置いてある虫かごの中に入れてある。
翅をたててリーンと鳴るのをきほさんと鳴いてる！と一緒にみていると、
他の子どもたちも集まってきて一緒にみる。
虫眼鏡でみてみたいという子がいたので、出してきて覗き込む。

下からも覗けるスコープや、
姿や声を絵や何かで表現する環境も横に設置したら、さらに広がりそう。

その後、収穫してきたバジルを油、粉チーズ、にんにく、松の実、塩を合わせて
ミキサーでジェノベーゼソースづくり。
押すとぐるぐるっ、と刃が回るのが楽しく、交代しながら作る。
部屋中、バジルの匂いで満たされ、外から入ってくる子どもも、なんかにおいする！と寄ってくる。



2021.9.8.(水)

畑で花を咲かせる露草。

花から出る紫色にクエン酸液を入れるとピンク色に、重曹を入れると緑色になるのが面白いな、と思い、乳児担当のMさんもやってみたいと言ってくれたので、乳児に材料を手渡す。

テラスで画用紙に花や茎を擦り付ける子ども達。

あー、こんなふうに素材提供する形もいいな、と思った。

午後は、みんな畑で収穫したくてしょうがなく、色々物色。

ミニトマト、ナス、ピーマン、おくら、ミニメロン、と収穫していた。

今日は子どもが行きたいように言うがままに進む散歩。

どんどん好奇心が開いていく様子が面白くて、私自身も穏やかに子どもと関わって楽しい散歩だった。



2021.9.14. (火)

雨の後で園庭には蚊がいっぱいだが、子ども達はものともせず遊び回っている。
雨が多いからキノコも多く、いろんな実も結実していているから、
園庭を一回りするだけで楽しい。

フウノミに白、黒の粘土で白眼黒眼をつけて、
粘土が手元があり、そのまま樹木の幹に目をつける遊びを仕掛けたら、
想像以上に色々なものにくっつけて楽しむ。

滑り台、船、ベンチなどなど。

目をつけることで親近感がわき、擬人化して扱うファンタジーな世界を楽しめるかな、と思ったが、
どちらかというと工作感覚で、こんなとこにこんな風につけたら面白い！という発想でやっているみたい
だった。

素材の吟味なしにやったから、長持ちはしないが、園庭でもっと仕掛けて行く要素はあるなあ、と思う。

その他、雨が降った後だからこそ楽しめる水路掘りやテントの雨落としなど、楽しいことを子ども達はめ
ざとく見つけて楽しんでいた。

あと、今日は前々から持ち越していた、収穫した小麦をミルサーで粉にできるかやってみた。

別に誰にも話さずやり始めたのだが、ミルサーの音にわらわら集まる子ども達。

結果、ちゃんと粉になり、全粒粉として使えそう！

クッキーが作れるねえ、との私の言葉もあり、いつやるのかが気がかりで保護者に話す子どもも（笑）。

次への繋がりが楽しみ。



2021.10.6.(火)

今日の散歩は、畑と水路と畦道と。

みんな好き好きに遊ぶ。

里芋の葉をトトロの葉っぱだ、かさにしたい！と切りとり、かさにしたり、帽子にしたり。

Tさんは、カマキリを捕まえて、さらに捕まえたバッタを口に近づけてみる。

すると、カマキリがばくばく食べる。

それを見に周りの友達も見に来て、たまたま私も虫眼鏡を持っていたので出して渡した。

Tさんの観察力と論理的に組み立てる力はすごく高く、カマキリがどんな風に食べるかを見てとって説明、それが周りの子どもの発見にもなり、興味関心が高まる。伝播。

すすむさんときせさんには一目置いているようだ。

とても良い時間だった。



2021.10.13.(水)

畑にいくと、みんな、ピーマンやナスやらをハサミもなしに収穫するようになった。
今日は里芋も掘ってみた。

その後、柿をとりたからあべまき広場に行きたい、という声が上がリ、蚊を覚悟しながら行くことに。

銀杏の洗礼を受けながら、たどり着いた柿の木にみんなが群がり、採ってかじる。

Aさんはバツタを捕まえた時に指についた茶色い滲みが気になり、いやでしょうがない。

とれなきゃ嫌だ、と神経質になっている。かといって水もない。

その辺の葉っぱで拭いてみたら？と葉を渡すも、「とれない」とまた何度も繰り返し訴え続ける。

「なんか水がついている葉っぱとかを探そう」と言い、湿地っぽくなっているところの葉をとって揉み、水気を出してから拭いてあげると、やっと取れて、ようやくAさんの気持ちが落ち着く。

周りは柿に夢中なのに、指が気になる間は柿に見向きもしなかった。

帰りになって、「Aちゃん、かきひとつもってないけど」とアピール（笑）

彼はひとつひとつ自分の気になることに真摯だ。



2021.10.27.(水)

散歩に行きたい人が多くて 35 人の大所帯。

柿が食べたいというので、コイン精米機のところへ。

車が通るので、神経を使う、、、。

4時迎えの子供などもいたので、その後もう一度、すすく下へ水路際から戻り、第二弾畑付近散歩。

ウィンナーとよぶガマの穂で綿菓子綿菓子といって遊び、綿まみれに。

秋の散歩は楽しい。



2021.11.4.(木)

影絵のような夕暮れシルエット。

光と影。

やはり人数が10名以下くらいだと、散歩ののんびり感が違う。

最近では30名くらいを連れて行っていたので、そう思う。

さるさんのたくさんの引き出しに、みんなひとつひとつ食いついて、
ススキで互いの体を掃除しあったり、稲刈り後の田んぼでバッタを探したり。

Tさんは、他の人が次に行っても、

しばらく水路に葉っぱを投げ込んで流れることが面白くて、ずっと繰り返す。

水がものを動かしていく、引っかかって止まったり、場所によっては速度をあげたり。

2つのものを同時にいれてみて競わせてみたり、。

ある女の子は、私の頭にススキをさしてくれた。

トゲトゲしてないアザミを見つけて、可愛い！と私が言ってそれも髪に飾ろうとしたら、

「すわって」といい、おめぐさんだったらちゃんとかわいくなるよ、だいじょうぶよ」と言いながら、
自分の持つアザミをさしてくれた。この子はきっと人に喜んでもらうのが好きな子なんだろうと思った。

また、Kさんは、

風の棟下の水路際を通っている時、斜面下側に広がる空に雲が広がる風景をみて、

「おおきいねえ、きれいだねえ」と手を広げてその広さを表現するように回す。

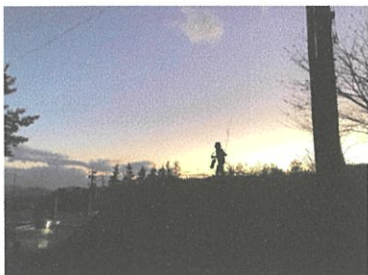
そして、「ねえ、あそこにとんがっているの、たべられそうだねえ」という。

山の中でひとつ飛び出ている杉っぽい木のとんがりを言っているのかなあ、と思っていたが
どうやら小さく見える民家のことみたいで、

他の子どもがすぐ目の前の倉庫も指さして、それならこれも食べられるよ、というと、

Kさんは「おおきすぎるよ～、ぜんぶたべられないよ」と言う。純粹なやりとりに心が洗われた。

子どもにいつも救われる。



2021.11.8.(月)

目まぐるしく日々が過ぎてゆく。濃いも薄いも飲み込んで。

今日は雨が降ってても外で遊びたい、だって暖かい服きてるし、という言葉に、熱が出ている人も増えてるし、自分で寒くなったと感じたら、自分で中に入ってね、と伝えて、小雨のなか、外に出る。

私は毛糸を剥ぎ縫いする大きい針で、色とりどりの落ち葉を刺してカーテンづくり。をしていると、すすむさんやことこさんがやりたい!とやってくる。

Sさんはそのうち、たくさんの落ち葉の束をつくり、そこに針を突き刺すことを楽しみ始める。すると、私が思いもつかなかったような塊がうまれ、それがまた可愛い。

雨が本降りになったのですすくホールに入り、作った落ち葉カーテンを吊るす。

